

## 第9課「霊の結ぶ実」は柔和

\* 「柔和」とは、「優しく穏やかである」ということである。「柔和」な人と共にいると私たちは「温かさ」を感じ、「安心感」を得られるのではないだろうか。実のところ、私たちが今一番求めている事は、この何事も心配する事なく安心して穏やかでいられる事なのかもしれない。「柔和」で「謙遜」であられるイエスから、安らぎを与えていただきたい。

### 1. 柔和であることとは

- **全てを委ねる** 自分の為闘うのを止めて、神が代わって闘って下さる事実に気づき、あらゆることに対して神に問いつつ、み旨を悟り行なう(マタイ11:29)。あらゆることを神に任せ、怒らず、慌てず、恐れず、悲しまず、困窮しない。
- **謙遜である**：キリスト者は、慎み深く、罪人である自分自身をよく知っている。罪人は、その罪故に滅びるばかりなのである。しかし、神はそんな運命の私たちを救いたいと願っておられる。神の憐れみと深い愛によって、私たちは生かされている。それこそ神の柔和が現されている。更に、神は私たちのために大なる犠牲をはらわれている。王の王、主の主であられる方が、地上に来られ、しかも罪人の有様で、私たちの身代わりとなられた。そして地上におられる間、常に私たちの模範として生きられた。その冴えたることが、この世の最も小さき者の僕として奉仕することにおいて謙遜であられた(ローマ12:3、エフェソ4:2)。
- **イエスの模範に従う**：「柔和」の真の模範は、イエス・キリストである。「柔和で謙遜」な方は(マタイ11:29)、全てを父なる神に委ねられた(マタイ26:39)。彼は常に優しく温かく、傷ついた魂に接せられた。また、弱き者のために進んで忍耐強く生きる模範となられ、正しく生きることを示された。悪や罪に対しては、常に毅然とした態度であった。悲しみをこらえながら譴責しなければならない現実に苦しみながらも、柔和でありながらも堂々としていた。時には義憤をも表すことがあったが、深い愛の故に罪を憎まれたが罪人を愛された(ヨハネ18:21~23、ヨハネ2:13~16、マタイ23:1~12)。
- **柔和の模範**：①アブラハム：甥のロトとの土地の分配の際、優先的に土地を選ぶ事ができたにもかかわらず、先にロトに選ばせた(創世13:8~11)。②ヨセフ：苦難の末に、神の導きの内にエジプトの総理大臣になった彼ののもとに、彼を妬み奴隷として売った兄たちが来たとき、憐れみ赦した(創世45章)。③ダビデ：王位を奪われることを恐れ、彼を何度も殺害しようとしたサウロに忠誠を立て続けた(サムエル上24:3~7、26:7~12)。④モーセ：度重なる民の反逆に対して、忍耐し赦し続け、神と彼らの間に立ち、中保し続けた(民数12:3)。その他、預言者や伝道者たち、神に忠実であろうとした者は皆「柔和」という美德を身につけた。

### 2. 柔和の重要性

- **神の御言葉を受けるために**：「柔和で謙遜」な心でなければ、神の言葉を正しく理解することはできない(ヤコブ1:21)。へりくだった思いは、素直に神の言葉を受け取ることができる。
- **神を証しするために**：キリスト者は、キリストに似た品性を持ちたいと願う。その生活や生き方こそが、イエスを証しする最も効果的な方法であることを知っている。イエスのように生きなければならないのではなく、イエスのように生きたいのである。イエスの愛に触れた者は、心から他者を慈しむ(1ペトロ3:15)。
- **内面を整える**：内面の美しさは、おのずと外面に溢れ出る。それは品性を成長させることである。イエスの品性を求め祈り、私たちの内面をイエスにあって整えていただき、良き人柄、柔和でしとやかな気立てを得たいと思う(1ペトロ3:4、黙示19:14)。

### 3. 柔和の持つ魅力

- **柔和の実践**：「霊の結ぶ実」とは私たちの実際の生活や、あらゆる営みの中で行なわれるものであり、結果であると思う。具体的に私たちの生き方の中に表されることは、①無抵抗(マタイ5:39)：悪に対して悪で報いる事はせず、十字架に進み行くイエスの模範を通して知ることができる。②無限に赦す(マタイ18:21~22)。③忍耐と寛容をもって柔和である(ガラテヤ6:1)。④どんな人にも柔和であれ(2テモテ2:24~25)：よく忍び、優しく柔和に反抗する者にも教え導く。⑤人をそしらず、争わず(テトス3:2)。⑥我以外皆我が師(フィリピ2:2~3)：同じ思い、同じ愛を持つことを望み、一致して互いを大事にする。言うは容易いが、実践する事は難しい。まさに神の導きと力、そして信仰が無ければなし得ない事である。
- **柔和の恵み**：私たちが心から目指したいのは、全ての「霊の結ぶ実」が、当たり前的事として自然に行なわれる事ではないだろうか。当たり前的事であるから、ほめられる必要も、誇る必要も、それを意識する必要も無い。ただ柔和に謙遜にひと時ひと時を生きてゆける事を目指してゆきたい。罪人たる私には、見返りや賞賛は似合わないし、値しない。受ける事も忍びないのに、神は私たちに恵みを用意して下さる。全ての必要が満たされ(詩篇22:27)、人として正しく生きてゆく道を示し、導いて下さる(詩篇25:9)。常に励ましが与えられ(詩篇147:6)、あらゆる苦しみから解放していただき、真の喜びがあたえられる(イザヤ26:19)。驚くべき事は、私たちがイエスと共に神の息子娘として受け入れられ、来るべき世を受け継ぐのである(詩篇37:11、マタイ5:5)。柔和な者は神を高めることができる。生きる事、存在する事で神を証しするのである。神は柔和な者を高めて下さり、御用のために用いて下さる。